村立幼稚園再編に向けた対応方針（案）に対する意見交換会

日時	令和3年4月30日（金）午前10時から正午
場所	東海文化センター（大会議室）
出席者	村長，副村長，教育長，福祉部長，子育て支援課長
参加者	35名 ＊対象地区（学区）：照沼・中丸・舟石川

○ 村長挨拶 ○

幼稚園の再編整備については、昨年村から方針を打ち出したが、突然だというご批判を受けている。（令和2年）10月9日に私が東海文化センターで説明させていただいたが、その時大変厳しいご意見をいただいた。その後、議会でも議論になったが、村としては、村松幼稚園への統合ということで進めている。12月にはアンケート調査を実施し、私も自由意見も含めて全て目を通したが、厳しいご意見をたくさんいただいている。アンケートについて項目をまとめ、村ホームページ上でFAQという形でいくつかお答えしているが、まだまだ足りないところもあると思う。アンケートでのご意見はワーキング・チーム会議で協議し、考え方をウェブ上で示して、それに対するご意見もいただいていた。それらについても、ある程度まとめてお答えはしているつもりだが、いずれにしてもご意見をいただいてもきちんと返していないというところで、今回、2回に分けての意見交換会を設定している。

皆さんからのご意見を踏まえ、できるところ、難しいところ、いろいろとあるが、今日の担当からの説明を聞いていただき、またご意見をいただければと思う。

昨年ちょうど募集時期の直前の説明会ということで大変お叱りを受けたため、今年の秋の募集時期までに皆さんに十分考えていただける期間を設けるには5～6月頃には対応方針を示さなければ失礼だろうということで、この時期の開催となっている。今日のご意見を踏まえて見直すところがあればそこは考えていきたいと思うが、なるべく早く最終的な対応方針を固めたいと思っているのでよろしくお願いいたします。

また、今日は、幼稚園再編とは直接関係ない道路の話の冒頭にさせていただく。須和間幼稚園の近くを新しい道路が通り、「この道路の事業化が決まったので須和間幼稚園が廃園になるのではないか」との懸念を抱いているご意見があった。実際その道路が決まったのはずっと前の話で直接は関係ないが、少しその話もさせていただく。

今日は地域の方々もいらしているが、これまでは就学前の保護者の方を対象に説明してきたつもりだが、地域の方々には説明する機会がなかったことについては、大変失礼した。今日の説明を聞いていただき、ご意見があれば伺いたいと思っている。限られた時間ではあるが、よろしくお願いいたします。

○ 水戸外環状道路事業内容説明 ○

<副村長>（説明概要）

- ・道路整備事業区間：国道6号から国道245号までの6.1kmの区間
- ・平成16年に都市計画決定された県の事業
- ・須和間幼稚園の近くを通るように計画になっているが、幼稚園とはある程度の距離もあり、この道路整備の

ために幼稚園再編を進めるものではない

○ 「**村立幼稚園再編整備に向けた対応方針（案）**」説明 ○

<福祉部長>（資料に基づき説明）

○ **意見交換** ○

<参加者 A>

- 転園は精神的にとても負担がかかる。特に今後、須和間幼稚園や舟石川幼稚園は、転園したくないという理由で入園を諦める保護者の方が増えて、どんどん園児数が減っていくのではないかと予想される。
- 少人数の園で過ごしてきた状況から、村松幼稚園という 200 人の大規模園に転園するということは、園児にとって環境の変化が大きく、とても負担がかかる。
- 転園先が村松幼稚園しかないので、私立の幼稚園を選んだり、保育園へ入れるために就職したりと、転園をさせたくないから公立幼稚園には行けないという話も聞いている。
- 転園を余儀なくされる園児や保護者に、石神幼稚園や近くの私立のこども園など、いろいろな選択肢を残しておき、園児や保護者に負担がない状況を作っておいてほしい。

<福祉部長>

- 統合までの入園先に関しては、基本的に現在居住する学区の幼稚園に通っていただくことになるが、統合後の転園先は、村松幼稚園だけでなく、拡大するとうかい村松宿こども園の幼稚園枠（学区外）、その他私立の幼稚園・認定こども園等もあり、令和 7 年度までは石神幼稚園の学区外入園枠も選択肢となる。
- （年少児だけでなく）年中児・年長児も、同様に定員に空きがあれば、転園が可能。

<参加者 A>

- 空きがあればという話だが、とうかい村松宿こども園の幼稚園枠の学区外入園枠のみの拡大でなく、保育所枠を減らして幼稚園枠を増やしてもらいたい。「空きがあれば」ではなく、空きを作してほしい。

<福祉部長>

- とうかい村松宿こども園は、幼稚園枠が 40 名、保育所枠が 100 名となっている。現在、幼稚園枠については、（照沼小）学区内の方の人数の枠を多く確保しているが、これまでの状況を踏まえると、学区内の園児数は 3～4 名程度でほぼ変わらないと考えているため、学区外入園枠を確保（拡大）することで足りると思っている。また、出生数に対する幼稚園に入園される方の傾向等を見ると、これまでの村内の幼稚園の受入れ枠の中で十分対応できると考えている。

.....
<参加者 B>

- 須和間幼稚園と舟石川幼稚園の園児が、とうかい村松宿こども園へ優先的に入園することは可能なのか。
- もし 40 人の幼稚園枠の拡大ができて、（須和間幼稚園と舟石川幼稚園の園児が）とうかい村松宿こども園に行くことができると、（同じ中学校区なので）中学校も流れるにはスムーズかなと思う。とうかい村松宿こども園は、道路は混むかもしれないが、園庭も広いし、まだ施設がきれいなこともあるので、保護者もそこまで不安がないのかと思う。
- 村松幼稚園は 18 時まで預けることができるということをアピールして、なるべく村松小学校区や白方小学校区の方には村松幼稚園へ入ってもらえるようにし、幼稚園がなくなる学区の園児を少しでもこども園へ優

先して入れてもらえると、保護者としては助かる。

<福祉部長>

○とうかい村松宿こども園の学区外入園枠については、現在は抽選という制度の中で運用している。

<村長>

○幼稚園の学区外入園枠は、照沼小学校区以外の方は誰でも入ることができるが、今回あえてその枠を広げたので、そこは須和間幼稚園や舟石川幼稚園の方の選択肢にはなるかと思う。ご意見のように優先して入園できるかどうかについて、どれだけ希望があるか分からないが、私個人としては何か配慮する必要があるかと思っている。詳細についてはもう少し整理していくが、できるだけ影響が少ないよう、入園の希望を受けられるよう、今のご意見を十分に踏まえて考えていきたい。

.....
<参加者 C>

○村松幼稚園へ統合して園児数が増えると、幼稚園周辺の方の中には、残念なことだと思う方がいるのでは。東京の方では、「住宅地に幼稚園が作られるとうるさくて困る」という考えの方がいると聞か、そのようなことについてどう考えているか。

<福祉部長>

○村松幼稚園に統合することで園児数は現在よりも増え、自家用車での登園も増えるという中で、危険運転や地域の方への迷惑がかかった場合などの対応など、いろいろとご意見はあるかと思う。再編計画については、村松幼稚園周辺の自治会の方へ事前にご説明に伺い、車に関して「一方通行にしてほしい」といった意見や、「再編にあたって協力はできると思うので声をかけてもらいたい」といったありがたいご意見などもいただいているので、村としても地域の方々に逐次ご説明をしながら村立幼稚園再編に向けた協議を進めていく。

.....
<参加者 D>

○先ほど出た意見のように、統合により園児数が増えることで苦情が出てくると思うが、それについて保護者に負担を与えないと確約してほしい。

○追加コストについても保護者に払わせず、村が全部支払うと確約してほしい。

○地元の方々に多大な迷惑をかけるだろうし、立哨等の人手も必要だと思う。駐車場の白線引きも保護者にやらせたりしているが、それらは村で責任をもってやってほしい。

○今回の意見交換会の（参加者の）想定は地元の方々やお母さん方だと思うが、お子さんが騒いだら申し訳ないと思って来られないお母さんがかなり多いと思う。このような意見交換会をやるのであれば、必ず保育サポートを用意して、お母さんのケアをしてもらわないと困る。

<福祉部長>

○苦情や追加の負担を保護者に求めないように、というご意見に関しては、当然ながら村松幼稚園運営に関わることは村が責任をもって対応し、送迎車両の利用者負担についても、村から負担は求めないと説明させていただいている。そこは対応していきたいと思っている。

○意見交換会における保育サポートについては、本日は利用がなかったようだが準備はしている。引き続き万全な体制で行う。

<参加者 D>

○今まで「人数が想定外に減っている」、「これから減っていく」という話があったと思うが、どういう想定をしているのかよく分からない。東海病院周辺を切り開いたり、イオンの近くにもマンションが建っていたりしており、人

は増えると思う。水戸外環状道路など、道路が広くなれば交通の便が良くなるのでフロースタ須和間の方も人が増える可能性があると思うが、どのように考えているか。

○幼稚園の園児の推移数についてもどのような想定をしているのか。

<村長>

○村全体の人口についてはある程度人口ビジョンを持っているが、年齢別のところまでは想定はしていない。今は人口が 38,000 人だが、（人口ビジョンでは）2030 年までに 36,000 人で多少減る。毎年 300 人子どもが生まれて、転入増で 100 人（訂正：50 人）が実現できれば、36,000 人の総人口は維持できる。年齢別については、高年齢層が上がってしまうのでその数は減るが、少なくとも毎年 300 人生まれていれば、今の規模が維持できると思っていたが、去年の出生数が 230 人となり、このような子どもの減り方までは予想できなかった。

<参加者 D>

○想定していないということは、「想定外」ではない。

○子どもを小学生以降で増やそうと思った場合に、幼稚園や保育園の子どもたちが（そのまま）小学校に入っているのか、といった定着率を考えて議論されているのか。幼稚園や保育園を持続して子どもを増やすことが、将来的な小中学生を増やすことに繋がっていくのか否かは見ているのだろう。

<村長>

○正直、これまでは保育所ニーズに焦点を当てた施策を行ってきており、幼稚園やこども園を含めた就学前のお子さんというところまでは少し考えが及ばなかった。働いている世帯を中心に見過ぎており、保育所の待機児童の解消＝少子化対策になると思っていたが、それだけでは足りないということにやっと気づいた。これからは、若い人たちがどういう生活を望んでいるのか、どういう選択肢を求めているのかをきちんと掴み、それに合わせた施策を講じていくように考えている。

<参加者 D>

○保育園を増やすことも良いが、0 歳児から 3 歳児の受け皿を増やしたときには保育士の数は膨大に必要となる。そういうことを考えると、幼稚園を受け皿に使わなければ、保育士がいくらいても足りず、無駄な話になってしまうので、そこをまず議論してから村として幼稚園をどうすべきか考えるべきではないか。

○仮に幼稚園を廃園にした後に、再度幼稚園を増やすということがあった場合、自治会の方を説得できるのか。

<村長>

○この先、幼稚園の園児数が V 字回復で伸びることはないと言い切れないが、私の中では再編した後でも、（幼稚園ニーズの）受け皿としては村松幼稚園が 1 つ、こども園とで 2 つでやっていけると今は思っている。ただ、将来推計がどうなるかはきちんと見ていきたいと思うし、それとあわせて幅広い世代に対する施策についても考えていく。

.....
<参加者 E>

○私には 3 人子どもがいるが、2 番目の子どもを幼稚園に入れるときに、苦勞をして抽選をくぐり抜けた。子どもが減っているから村松幼稚園に統合するということだが、宅地開発も進んでおり、想定外の園児数の増加もあり得なくはないと思う。その際に、抽選をせず全員入園させるということを約束してもらいたい。抽選に外れるのは本当に悲惨であり、村の都合で 1 園に統合するのだから、今後幼稚園は抽選で園児を振り分けないと約束してほしい。

<村長>

- 3～4年先にどうなるか分からないところを無責任に「約束する」とは言えないが、そうならないように全力を尽くし、受け皿はきちんと確保しなければならないと思っている。

<参加者 E>

- 12月の保護者アンケートの自由意見を見ると、保育園希望の保護者の方からもかなりきつい意見が出ていた。保育園は手厚いと思っていたのでとても驚いた。
- 舟石川保育所の経年劣化は激しく、閉所となったときに受け皿はどうなるのか不安。今後、保育ニーズに移行していくというが、幼稚園を減らし、保育園も今のところは増やすことも考えていないとなると、子育て世代が東海村を選ぶのだろうか。
- 那珂市では、幼稚園5園を1園に統合したが、通いやすいところに新しい幼稚園を作ったので保護者からそこまで不満は出ていないと思う。なぜ東海村は村松幼稚園への統合なのか。みんなが通いやすいところに新しい幼児施設を作るという発想はもうないのか。
- 歴史と未来の交流館は、建築予算が国から7億出ると言っていたが、結局工事で14億8,995万円、展示物の制作に9,905万円、工事の監理に5,401万円、備品の購入に1億8,400万ということでは、11億くらい村から出しているということではないのか。そして、年間の維持管理費の3,000万は、石神幼稚園、舟石川幼稚園、須和間幼稚園の年間予算よりも多い。そういう施設を作っておいて幼稚園はつぶすのか。しかも、歴史と未来の交流館も子どものための施設だということだが、少子化なのにそういう施設は作るのかとってしまう。
- 村松幼稚園が悪いというわけではないが、道が狭く、運転に自信がないお母さんには「自家用車持っているだろう」とか、「(道を)一方通行にするから」と言われても、小さい子を連れてるので事故が怖い。
- 村ホームページに掲載されている「よくある質問(FAQ)」を見たところ、村松幼稚園は築40年^{*}であり、今後大規模修繕等をして70年使用すると書いてあった。大規模修繕にかかる費用と、幼稚園施設を新設する金額の比較検討はしているのか。
^{*}村松幼稚園は築31年
- 舟石川幼稚園、須和間幼稚園、石神幼稚園をそれぞれ残してほしいと言っているわけではなく、統合は仕方ないと思うが、なぜ統合先が村松幼稚園なのか。村のどこからでも通いやすい位置に新設し、村松幼稚園も壊す、ということなら分かる。なぜ村松幼稚園を残し、70年使うというのが分からない。
- 70年というのは、築70年の使用を目指すということか。それとも、これから70年使用することか。
- せっかくある施設を使わないもったいないと言われるかもしれないが、歴史と未来の交流館の駐車場にするからと旧中央公民館をあっさり壊したのとどう違うのか、説明してもらいたい。

<村長>

- 保育所は、待機児童はだいぶ解消されたが保育所ニーズがまだ続き、入所待ちの方もまだまだいるので、舟石川保育所は当面は維持していく。ただ、舟石川保育所は0歳児保育をやっていないが、0歳児、1歳児の保育所ニーズは高い。それについては民間でも小規模保育をやっており、そういうお話も結構来る。公立で保育所を整備しなくても、私立の保育園が進出し、それが受け皿になるところもあるので、私立と公立のバランスを取っていかなければならない。保育所は圧倒的に私立の施設の方が多い。いずれ必要があれば民間が出てくる可能性があるので、そこは公私あわせて受け皿を整えていきたい。
- 幼稚園は私立が1か所で、新しく進出するという話は全然来ない。
幼稚園をもし建て替えるとすると、私も数字は分からないが、多分1か所あたり数億はかかると思う。数億かけてまで村松幼稚園を改修するかというと、そこはまた選択になってくると思う。村の公共施設全体では、RC、コンクリートの建物については(耐用年数が)60年くらいだが、10年延ばすことで維持管理

費を抑えていこうという大きな考え方がある。ただ、個別の施設については、その状況に応じて改築をしたり、長寿命化でお金をかけるより新しく建て替えた方が良くなればそういう選択肢もあったりすると思う。今現在はそこまで細かく検討はしていないので、大きな方針としては 70 年くらい使うとは書いている。子どもを預かる施設なので、状況によっては改築ということもあり得ると思うが、いずれにしても幼稚園を分散型でやるのには、運営上は厳しいというところでこのような考えには至っている。

○先を見据えてどう施設を整備していくかというのは非常に大切な視点で、施設を無駄にしてはいけないし、過剰になってもいけない。その考え方については当然、村の中できちんと議論をしているが、今後は住民の方々にも説明をしていく必要があると思う。

○全てが同じような建築年数であれば新しくどこか 1 か所になったのかもしれないが、村松幼稚園は他の施設と比べて 2 階建ての頑強な施設であり、まだ使うことができるというところは当然ある。園児数の資料にもあったとおり平成 15 年に 240 人ほど預かった実績があったので、村松幼稚園であれば、200 人弱を受け入れ可能と判断したところが現実である。

○「70 年の使用」というのは、築 70 年の使用という意味である。

.....
<参加者 F>

○村松幼稚園は、村に一つの村立幼稚園として作られたものではないので、統合先とするには問題や課題がどうしても多く出てしまうと思う。統合がやむを得ないということであれば、村の中心地に新しい幼稚園を作る方が、村民は納得しやすいのではないか。

○村松幼稚園を 70 年使うために大規模改修工事を行っていくとあるが、大規模改修工事を行う前に、今回の意見交換会のように園舎の様子や今後の方針について話し合えるような場を作ってほしい。

○何年か経たないと状況が分からないこともあると思うので、今 70 年使うと決めず、その時の状況に応じて村民に意見を聞きながら進めていく方が良いのではないか。

<村長>

○これまで公共施設の新設や大規模改修は、どちらかというと庁内で議論し、住民の代表である議会にも説明して、そこで合意をもらって進めてきた。これからは様々な施策について広く住民の方々から意見を聞くという視点が必要になってくると思う。村松幼稚園を大規模改修して限界まで使うのかということについては、いろいろなお意見があると思うので、村立幼稚園の再編に関してはできるか分からないが、広く住民の方々から意見を聞けるような形にはしていきたい。

.....
<参加者 G>

○村松幼稚園を大規模改修するにはどのくらいの費用がかかるのか。

○役場の西側にできた「けやきの杜保育所」の利用の対象者は誰なのか。役場職員専用ではないのか、といったことや、プレハブであり 10 年後には解体する、といった話も聞いている。

○今後大規模地震が発生する可能性はないとは言い切れない。それも含めて考えると、新たに別の場所に新設しても良いのではないか。

<村長>

○役場の隣に作った保育所は村立保育所だが、建物は 10 年リースで使っている。これは子どもの数が減り、保育所ニーズもいずれ下がってくるのではないかという思いもあり、最初から立派な建物は建てていないというところがある。最終的に保育所をどうするかということについては、先ほどもお答えしたが、全てを公立で行うパターンばかりではないので、状況を見ながら考えたい。

○大規模のものをどこに作るか、ということについては、施設ごとに建物自体の健在性のようなものは見ている。旧中央公民館は耐震性がないので取り壊した。他の施設は全て耐震化が終わっているが、耐震化は施設そのものの長寿命化とは異なる。まだこれから必要になるところなので、そこへ定期的に改修を続けてお金を投資し続けるのか、あるいは施設の再編の中で新しい施設を作るのかという考えは出てくると思う。これは幼稚園や保育所だけの問題ではなく、公共施設すべてに言えることだが、そこが村としては一番大きな課題。今 120 ほどある施設を 60～70 年間維持していくには、毎年 20～30 億の予算を確保していないと維持できないという計算は出ている。今度は個別に見直していくことになるが、公共施設は住民の皆さんが使うものであり、とても影響があるので、その検討結果は住民の方々に説明してご理解いただいた上で進めなければならない。人口が減ること併せて、建物をどれだけ維持し、どれを残すかというのは、非常に難しい選択であり、ご批判も受けている。非常に大事な時期に来ているので、これからきちんと住民説明をした上で詰めていきたい。

<福祉部長>

○けやきの杜保育所に関して、村職員が優先入所しているということは絶対はない。

.....
<参加者 H>

○新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためと思うが、今回の意見交換会が地域を分けたような意見交換会となってしまい残念に思う。実際に統合先となっている村松幼稚園学区の皆さんがどう思っているのか、直接意見を聞きたいと前から思っていた。このような状況の中で難しいかもしれないが、きちんとみんなの意見を全員が聞いて考える場をまた設けてもらいたい。

○石神地区の自治会の方が中心となって行っている「石神幼稚園を残してほしい」という署名が 1,000 名以上集まったと聞いた。幼児教育や小学校教育の問題などから、石神幼稚園を石神小学校の中に移転させて存続させることは難しいのではないかという資料は読んだが、石神幼稚園自体を残せないという理由はどこにも見当たらない。

○この再編整備に関わる会議の議事録を読んだが、「舟石川と須和間を廃園にしておいて、園児数が一番少ない石神を残したら、舟石川と須和間の保護者から文句が出るから石神も廃園せざるを得ないだろう」といった記述しか見当たらず、石神幼稚園がなぜ廃園になるのか理由が分からない。石神地区は少し離れていて、石神幼稚園がなくなると困るという住民の声を聞いている。

○再編・統合が進むと、東海村にはみぎわ幼稚園さんと村松幼稚園のみとなり、200 人の大規模幼稚園が 2 園という状況になってしまう。小規模園に通いたいという方や、大人数に向いていないというお子さんは少なからずいると思う。石神幼稚園の廃園はまだ先であり、以前請願書を提出した際にも、議員の中で「石神幼稚園を残す余地があるのではないか」という意見は多数出ている。地域の声を聞き、数年後の状況を見て少人数制として石神幼稚園を残すという検討の余地はないのか。

<村長>

○石神地区からの要望書のようなものについては、まだ私のところには届いていないが、先日の意見交換会でそういうものが集まったという話は聞いている。

○石神幼稚園を残す一つの方法として小学校の中へという考えはあったが、それができなくなったのは、施設の問題が一番大きい。石神幼稚園は、耐震化はしたが、老朽化は続いているのでいずれ建て替えなければならない。石神幼稚園をあとの園舎のままあと 10 年 20 年も使い続けることはできないと考えると、施設整備が必要になってくる。施設整備をして小規模の幼稚園を残すかというときに、その選択肢はないというところで、村松幼稚園への統合とした。小学校の中に同居ができれば、新たな施設整備がいらず、多

少の改修工事であればそれほど大きな投資はないのでそれができれば良かったのだが、結果的に空き教室も足りず、小学校との同居が無理となると単独で園舎を建てるということになる。そこまで新たな投資をして残すという発想はないということで、村松幼稚園に統合とした。

<教育長>

- 今の須和間幼稚園、舟石川幼稚園、石神幼稚園でも、小規模での素晴らしい教育が展開されているところではあるが、これからさらに子どもの数が減っていく中での小規模での教育を考えていかなければならない。幼稚園教育は学校教育のスタートであり、その教育が小学校に繋がっていき、さらには中学校に繋がっていくという流れの中で幼稚園教育がある。その流れを通して、各学校間を通して目指しているのが、「将来この社会を生きていくために、いろいろな人たちの存在を大事なものと認めて協同していく力を身につける」ということ。
- 幼稚園の段階で、協同性や対話、言葉で関わる力などを、5歳までの時期に身につけていく（ことを目指す）というのが一つの教育の考えである。その中で、ある程度の集団というものが必要になる。例えば、集団の中に入れず一人でぼつんという子ども、仲間の中にそういう考えを持っている子がいるのだということを感じることが出来る、といった、集団の環境を作ることも幼稚園の在り方だと思う。もちろん少人数でもそれはできるし、大事にすることはできるが、ある程度の人数の中でいろいろな関わり合いをし、その中で自分の考えを確立していったり、集団との関わりを見つめていったりすることが、中学校までに目指す教育の基礎となる。そこを考えたときに、いわゆる適正規模というものが求められてくる。
- 今、村の3歳児であれば16人の学級編成が最大だが、このくらいの規模で複数の学級編成をしていく、つまり学級が変わる、複数のクラスで変わっていくというのが大事なところである。少人数の良さは分かるが、今後を考えた場合、子どもたちにそういった力をつける意味でも、適正規模を確保していくことが教育の質の向上に繋がるのではないかと考えている。

<参加者 H>

- 私が聞いている教育論とは違う。3歳児は集団では遊ばない。4歳児もルールをもって集団で遊ばず、年長になってようやく他者を認識し、ルールをもって集団で遊べると聞いている。
- 確かに幼稚園は小学校、中学校、高校に繋がる大事な土台作りではあるが、その土台は人間関係を作るのではなく、自然体験などで自ら知覚し、体験し、その中で関心を持って、その興味に対して自発的に動く、好奇心の芽を育てていくことが大切だと、文科省の教育要領などには書いてある。幼稚園のときに他者を認識して協同する必要性があるとはあまり強調されていなかったように感じる。
- 舟石川幼稚園や須和間幼稚園では、自然体験をさせてくれており、遊びの中で自発的に興味を持ち、関心を持ってどんどん好奇心の芽を育てていく、ということができているので、これが小規模保育の良いところになっている。
- 私は須和間幼稚園の保護者だが、先生たちもとても勉強してくれており、子どもたちが外で思いっきり遊べる環境となるように手を加えてくれている。また、周辺環境も良く、天気良かつり時間があつたりすれば、園外で課外活動をして地域の人ともふれあいながら、自然環境の豊かな中で虫を捕ったり草を摘んだり、いろんなものにふれている。これが将来、小・中学校に繋がっていく幼児教育の在り方だということを、須和間幼稚園に入園して改めて感じた。村松幼稚園に統合してからもそれらを引き継いでいけるのか。
- 村松幼稚園から異動してくる先生が毎年何人かいるが、「こんなにいっぱい外で遊んでいるとは思わなかった」、「村松幼稚園ではこんなに外では遊んでいなかった」と言われる。村松幼稚園から来た先生たちが、須和間幼稚園の活動に驚かれるということに私は驚いた。今回の資料の中で、園児や保護者に対して「村松幼稚園はこんなところですよ」というような交流をしていくということは書かれているが、先生方が舟石

川幼稚園や須和間幼稚園でどんなことが行われているかをきちんと把握し、それを統合後の村松幼稚園でも継続していくという記述が全くないことが心配。どちらかという、舟石川幼稚園や須和間幼稚園の園児たちが、村松幼稚園へ馴染めるようにという記述しかない。

- 舟石川幼稚園や須和間幼稚園の保護者は、少人数制で、課外授業を重視し、思いっきり遊ばせてくれる環境を良しとして入園させている。それをないがしろにされ、とりあえず村松幼稚園へ詰め込んでおこうという感じでは、先生と一緒に異動してくれると言われても困る。
- 恐らく保護者は、幼児期においては、人間関係やコミュニケーション能力を高めることよりも、自然豊かな環境の中で思いっきり遊ばせて、心身ともに強くなってほしいという思いで入れている。統合後もそこをきちんと考えてもらわないと、せつかくの今までの東海村の良さが全くなってしまふ。

<教育長>

- 先ほどの話は、幼稚園を卒園するまでの3年間の関わりの中で育つ力の話をしていただいた。3歳児は一緒になって遊んだりする状況はなく、まず育つのは自立心であり、徐々にそこから仲間との関わりが増えていく。それが結果的には小学校に繋がるということで、いわゆる「関わる力」の質を幼稚園の段階でも高めしておく必要がある。自然体験や少人数の良さを活かした保育などの良さは私もよく分かるし、存続できるならば存続させてあげたいというのは本音だが、施設の老朽化や財政面の問題なども含めて総合すると、少人数ではなく、みんなが集まることによって育て上げる力を高める教育を新しい村松幼稚園でさせてあげたいという思いがある。
- 村松幼稚園で少人数の良さを活かさないのかということについて、「一人一人を先生方が見ることができる」という少人数の良さについては、学級編成の中で担任の先生以外の先生を配置したり、特別な配慮を要するお子さんがいれば、特別な配置をしたりということも可能なので、そういった面では一人一人を見ることがについては今後も継続して行っていく。
- 地域との関わり、自然との関わりについては、今ワーキング・チームでも検討しているが、例えば「須和間に行こうという体験をしてみよう」とか、「石神のほうに行ってみよう」とか、「人と関わってみよう」とか、具体的な内容については考えているところである。

.....

<参加者 I>

- 「少人数では社交性が身に付かない、それが弱点である」ということはよく分かるが、そうだとすると照沼小学校も石神小学校もいらないのでは。
- 小学校は石神も照沼も素晴らしい小学校を建てることのできたのに、幼稚園は建てず、石神幼稚園は石神小学校にスペースを考慮しているのに建てられないで、古い村松幼稚園に押し込めることとしている。
- 小学校も幼稚園も重要ではないという認識で良いか。

<教育長>

- 数の面から言えばそうなるが、今、小学校はコンピュータやタブレットの導入により、遠隔教育によって他の地域との交流を行ったり、実際にその地域との交流を通して現場に行ったり、といった活動が可能となっている。今照沼でも石神でも行っているが、そういう中で小さな学校の特色を活かしながら存続していくことが可能だと考えている。
- 小学校は小学校教育のカリキュラムの中で、少人数であっても学ぶ力、学ぶ環境を作ることが可能。幼稚園については、財政的な配慮がなければ成り立たない面もあるが、1園にまとめることでそれが可能になると、私は判断している。
- 少人数の良さを認めないわけではないが、そこは教育だけの論理ではなく、財政面の問題も含めて考えて

いく必要がある。

<参加者 I>

- 再編計画の説明の際に、財政の問題ではないと聞いているが、違うのか。
- 照沼小学校（の児童数）は 9～10 人なのに、どうやって継続するのか。文部科学省の少人数学級で言っている 30 人の 1 / 3しかおらず、（幼稚園の）3 歳児のクラス人数よりも少ない。
- 幼児教育と小学校教育は一緒ではないか。幼稚園と小学校を連携させるというのであれば、幼稚園と小学校は一体で考えるべき。小学校も巻き込んで議論すべきではないか。幼稚園だけ考えて、その後小学校をどうするかと考えるのは、単に後で小学校をつぶすと言っているようなものではないのか。

<教育長>

- 幼稚園の再編は財政だけの問題ではなく、財政と教育の質の問題だと考えている。
- 小学校の問題については今後検討すべき課題として考えていく。
- 私の考えとしては、幼稚園の再編の中で教育の質を高めるために今回は村松幼稚園に統合させる、そこから新たに子どもたちが各小学校に行き、小学校は（幼稚園とは）環境が違い、コンピュータ等ができる環境が整っているので、少人数であっても対応していきたいと考えている。

<参加者 I>

- 小学校と同様に幼稚園でも ICT を活用すれば良いのではないかと。Wi-Fi と大きなテレビがあればできるので、たいしてお金もかからないと思う。幼稚園ではできないのに、なぜ小学校ではできるのか理解できない。

<教育長>

- 幼稚園は基本的には遊びを通して学ぶものであるが、小学校はカリキュラムを通して、しかも知識理解の中での教育と体験を通しての学習が基本となるので、その辺りの違いがあると思う。

<参加者 I>

- 石神幼稚園は園児数も少なく、充足率も低いし、充足率 100%になっても人数はたいしていない。少人数教育がだめだというのなら、石神幼稚園のそもそもの人数設定がおかしいのではないかと。照沼小学校は少人数ではないのか。

<教育長>

- 少人数教育がだめということではない。財政面の問題もあるが、総合的に考える中で適切な質の高い教育をするための方策として、今の小規模の幼稚園については統合という方向で考えている。
- 小学校と幼稚園では学習環境が違う。いわゆる遊びの中での（幼稚園の）環境と、ある程度少人数でも対応、体験ができるような（小学校の）環境にしているということ。

<参加者 I>

- 幼稚園でも社交性を学ぶのは当然だが、どちらかというと社交性を完全に学ぶのは小学校なのではないか。幼稚園の所管は文部科学省だが、保育園の管轄は厚生労働省であり、教育ではない。結局、幼稚園と保育所はあくまでも一時施設であって、教育を学ぶのは小学校や中学校ではないのか。

<教育長>

- 社交性は、小学校だけではなく幼稚園でも学ぶ。
- 幼稚園はカリキュラムに基づく教育であり、保育所は保育ではあるが、今、小学校、中学校に続く卒園・卒業までに目指している姿は同じだということをご理解いただきたい。

<参加者 I>

- 幼稚園をひとつにまとめなくても良いし、現状でも例えば、毎日の必要はないと思うが、石神幼稚園から舟石川幼稚園に遊びに行くだけでも社交性の問題はないのではないかと。

○財政の問題ただ一点というなら納得できるが、あれだけ立派な小学校を建てて維持しようとしているのに、幼稚園は人が足りませんという説明に誰が納得するのか。

○この再編整備は、予算の問題ではないという話を以前の説明会で言っているはずではないか。

<村長>

○「予算の話ではない」と切り分けなくていただきたい。当然財政面の問題もある。

○石神小学校区内の子どものうち、石神幼稚園には約 10 人、その他の 20 人くらいは保育所や私立の施設に行っていることになるが、幼稚園も保育所も最終的に小学校へ行くことになるため、公立幼稚園だけでなく、保育所に行っている子や他の子どもも一緒に見ていかなければならない。

○公立幼稚園を守りたいが、公立幼稚園を選択する子が減ってしまっているのが実状。それは保護者の働き方にもよるのだろうが、そうなった場合に幼稚園を残せるかという、そこは財政的にも難しく、少人数教育の良さは新しい村松幼稚園に統合されても維持していけると判断をして、今回は統合することとした。

○村の財政には、施策別に行政目的がそれぞれある。(歴史と未来の交流館は)生涯学習の施策として必要だと判断して建てた施設であり、学校教育や保育などには別な分野の考え方がある。私は村長なので、村としてそれぞれで考え、トータルで判断する。皆さんからするとお金の使い方は一緒かもしれないが、こちらからすると、必要なものに必要な財源を充てているという考えになる。

<参加者 I>

○石神地区には今後家を建てる(場所の)余裕がないので、地元の方が減っていけば当然減と思う。「教室が空かないから小学校には入れられない」と言っていたと思うが、人が減るならば、教室も空き、幼稚園を小学校の中に入れるスペースはできるのではないか。

○例えば、けやきの杜保育所のように石神でも 10 年限定でプレハブを建て、プレハブの使用期限が終わるころに石神小学校へ入れるということも十分に考えられると思う。立派な石神小学校を活用するというのも一つの手だと思う。

<村長>

○小学校は大体地元の公立に行くのである程度子どもの数が読めるが、就学前は幼稚園と保育所、公立と私立関係なく選ぶので、そこがなかなか読めなかった。この先もどうなるかは見据えている。

○石神地区の子どもが今まで順当にきたのは、県営アパートがあるため。今、県営アパートで動きがないため、新しく入ってこない。そうやってきたときに子どもの数がどんどん減っていくというのは十分理解しており、それを防ぐために新しい施策をしなければと考えている。

○「教室が空くのではないか」という想定もできるが、それがどこまで確実性があるか分からない。文部科学省も 40 人学級を 35 人学級にし、小学校の学級規模が小さくなっていく。そうすると、子どもが減っているがクラス数は変わらないということも一方では想定される。国の施策がどう動くのか分からないし、地域の子ども数もどうなるか分からない。そこはものすごく難しい判断になるので、今のところ、あえて臨時的な施設を作ってまで確保するという事は考えていない。

<参加者 I>

○石神小学校で 1 クラス以上増える見込みがあるのか。一方で、人が増えると想定されているのであれば、村松幼稚園の見込みは 170 人というが、その見込みでは甘いのではないか。

○村全体の幼稚園の人数は増えないと想定している一方で、石神小学校の人数は増えるかもしれないということがよく分からない。

<村長>

○児童数が増えるのではなく、学級編制が変わってくるという話。子どもの数が減ってきても、クラス数は一定

数は必要になってくる。

- （クラス数が増えるほど）子どもの数が増えるかどうかは分からない。例えば今、石神小学校の 6 年生は 40 人で、本来は 1 クラスでの対応だが、県の方から加配があり、20 人の 2 クラスになっている。小学校の先生は県の職員であり、ある程度県の方針にあわせて学校運営をしていくこともあり、そういった政策的な判断などの兼ね合いもあるため、村が判断できないところもある。

<参加者 I>

- 建物の建設には県が関わっているのか。
- 想定が甘すぎないか。幼稚園を作れない理由には値しないのではないか。
- 大規模改修工事の費用と新しい幼稚園の建築費用は、それぞれのどのくらい費用がかかるのか示してもらわなければ議論にならない。

<村長>

- 建物（学校）を作る際、県や国から補助金をもらったりしているので、そこはいろいろな制度の中で動いている。幼稚園には基準があるが、その中でも自治体である程度判断ができるところがある。小学校と幼稚園はそこに違いがある。
- （試算が甘いという考え方もあるかもしれないが）私は今の状況を見て、個別の幼稚園を残すのではなく、統合しても受け皿としては十分にあると判断した。意見の違いではあるが、ご理解をいただきたい。
- 大規模改修工事と新しい幼稚園の建築費用については、今この場では答えられないので、後で担当課に確認し、標準的な費用の比較をホームページで公表する。

.....

<参加者 J>

- 財政的には厳しい部分もあるのだろうが、幼稚園の教育について私立と公立のバランス問題があったとしても、少し余裕を持って、少人数でも限度までもう少し頑張ってもらいたい。立場上、厳しい部分もあるかもしれないが、そのあたりを配慮してもらえると良い。

<村長>

- 私も残せるなら残したい。ぎりぎりまで引っ張り、あとは次の世代の人によろしく、とやってみればそれは一番楽だが、それでは問題の先送りである。こうして皆さんからの厳しいご意見もあえて受けるし、批判されてばかりだが、5 年先、10 年先には、統合はやむを得なかったという判断をしてもらえると私は思っている。ぎりぎりまで引っ張り、「お手上げでもうどうしようもないので統合します」と言った時のほうが、恐らく保護者やいろいろな方への影響が大きい。皆さんにとっては本当にひどい話かもしれないが、村全体を統括している身とすれば、先のことを考えた時に、この判断はやむを得ないと思って行っている。私の任期中に何とかなれば良いとは考えていないので、そこは覚悟を持ってやっている。ご批判も真摯に受け止めたいと思うが、決してこれが手戻りにならないようにしっかりやっていきたい。

.....

<参加者 K>

- 東海村の良さは、自然がとても豊かなところだと思う。村松幼稚園は住宅地の中にあり、そこへ 1 か所になるのはもったいないと思っている。村松幼稚園を大規模改修して使うのではなく、ぜひ自然の中に新しい幼稚園やこども園を作る方向で考えてもらいたい。
- 村松幼稚園には 1 回だけ行ったことがあるが、もう十分だと思ってしまった。もし村松幼稚園に行くとなると、自分の運転で毎日村松幼稚園まで行くのはなかなか難しい。
- 令和 6 年度は 170 人を見込んでいるとのことだが、時差登園は遠いところから行くとなると、時間が読め

ない。170 人が村松幼稚園へ一気に集まった場合、原研関係で通勤している方などは混乱してしまうのではないかと。原則自家用車ではなく、村松幼稚園学区の人以外は原則送迎車両での通園ということにはできないか。

- 幼稚園での子どもの様子を聞きたいとか、先生と直接お話をしたいという意見があるとのことだが、自家用車での送迎ではなく、園バスなどに保護者も一緒に乗りたいということだと思う。保護者が同乗できる家庭は送迎車両を使い、保護者が同乗できない場合は自家用車での通園というのはいかがでしょうか。私は下に小さい子どもがいるため、転園の対象になる。できれば自分で（送迎に）行きたいが、村松幼稚園に行くのは怖く、車はあるが行けないと思っている。できれば子どもと一緒に乗って行き、様子を見たり、お話をしたりして帰ってこれると良いと思う。それなら渋滞の緩和にもなり、CO2 の削減などにもなると思う。送迎の方法については、引き続き検討してもらいたい。

<福祉部長>

- 今回の統合にあたり、通園の方法に関しては、統合に伴う須和間幼稚園、舟石川幼稚園、石神幼稚園から村松幼稚園に統合される方で、どうしても自家用車等で通園ができないという方に関しては、村の方で通園手段としてバス等の手配をさせていただく。
- 村松幼稚園への通園にあたり原研通りの混雑が心配されているようだが、現在国道 245 号線の工事等の影響により、多少混雑を感じているのかと思う。我々も 3 月から 4 月にかけて 4 日ほど現状を把握しているが、その中でも特に、雨の日となると村松幼稚園前の歩道橋付近まで渋滞はしているようだが、8 時 40 分以降に関しては、ほぼスムーズな通園体制がとれていると思う。今後、若干増えるとは思いますが、園児の全員が自家用車での通園にはならないと思っており、通園の状況は確保できる。

<村長>

- いろいろなご意見があった中で、私個人としては園バスでいいと思っていたが、保護者の方から預ける時、迎えに行く時に直接幼稚園に行き、先生と話したい、それが大事なんだという話を聞いて、それならば「原則各家庭」で、物理的に難しい人は園バス（等の送迎車両）とただけなので、自分で送迎できない方については個別に事情をよく聞いた上で対応したい。その後の村松幼稚園の在り方については、確かに私個人としてもできれば絆の周辺に幼稚園が建てられれば良いことだと思っている。村松幼稚園を今の場所にわざわざ建て替えたとしても、現園舎を運営しながら建て替えとなると、とても窮屈な中での建て替えとなるので、大規模改修にどのくらいお金がかかるのか、お金がかかるのであれば新しいところに建てた方が良いのでは、ということも当然議論としては出てくると思う。そこは柔軟に考えていきたい。
- 確かにバスを大きくすれば保護者も乗れるが、今のところ子どもの数だけ考えれば、ジャンボタクシー等の小さな車両のピストン運行でスムーズに行ける方が良いのではないかとことや、村松幼稚園周辺は非常に道路が狭いので、バスが入っていくのは物理的には少し厳しいということもある。ただ、行事などのときに保護者も一緒に見たいということになると、別な手段として、スポット的なもので（車両を準備）できると思うが、その辺りは皆さんからのご意見を聞きながら、両方考えていきたいと思う。具体的な話は、相談窓口を設けているので、そこで個別の状況をよくお話いただき、そういった点も勘案しながら対応を考えたい。

以上